



今回は、先月城戸崇雄氏が紹介された（「こげら通信」第26号）、アビを取り上げます。

アビ *Gavia stellata*

日本各地の沿岸や河口、海岸近くの湖沼に、亜種アビ *G. s. stellata* が冬鳥として渡来する（※1）。

四国では70年代後半まで、その他のオオハム類に混じって少なからず渡来していたようである（※2ほか）。これはかつて、広島県近海にはオオハム類の群れが円陣を作るようにイカナゴを追いつめて採餌する習性を利用した「鳥持網代漁法（アビ漁）」があり、その渡来海域が保護されていたためと思われる。しかし大型船舶の増加等によりオオハム類が減少、アビ漁も衰え、近年では広島県近海でもめったに渡来しなくなっている（※3）。

香川県では、70年代前半に五色台（詳細不明・大崎鼻沿岸?）での記録（※4）があるほか、73年頃は三豊郡沿岸（観音寺市・大野原・豊浜町）では鳥獣保護区化による観察数の増加もあつ

たようである（※5）。

しかし広島県近海同様に減少し、80年代以降は「まれ」な野鳥と認識され（※6）、90年代以降は確認した限りでは具体的な観察記録は無かった。

よって、今回の城戸崇雄氏による2004年3月14日の満濃池での観察記録（※7）は、近年に無い貴重な情報と言える。

なお同年2月7日に勝田池でも1羽が観察されている（※8）。2件とも内陸の池での観察であり、これらは移動途中に一時的に内陸の池に着水したものと考えられる。

本種は前述のとおり環境変化によって激減した種であり、積極的な保護を要する。香川県では、最もオオハム類が頻繁に観察される豊浜町余木崎沿岸海域の保全が第一に望まれるところである。

…引用文献…

※1 「日本鳥類目録第6版」, 日本鳥学会, 2000

※3 「ひろしま野鳥図鑑」日本野鳥の会広島県支部, 1998

※5 「香川県鳥獣目録」, 香川県, 1980

※7 「こげら通信」, 香川の野鳥を守る会, 2004.4

※2 「四国の野鳥」, 和田豊州, 1973

※4 「五色台の野鳥」, 香川県, 1972

※6 「香川県のとりとけもの」, 香川県, 1993

※8 「かいつぶり」, 日本野鳥の会香川県支部, 2004.4